

だざいふじょうぼうあと
大宰府条坊跡第346次調査

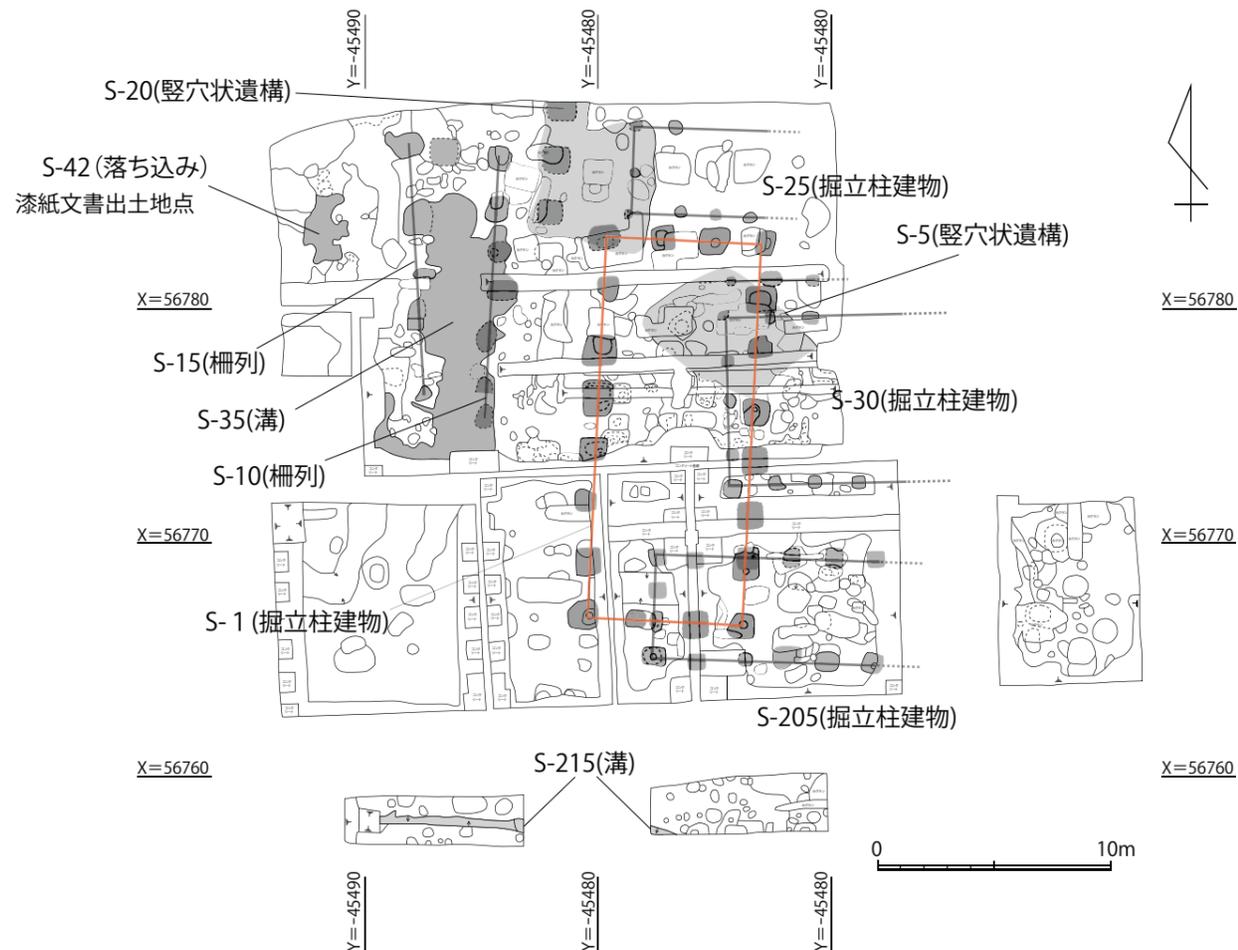
— 水城小学校建替えに伴う発掘調査 —

この調査地は古代大宰府の官衙(役所)の西側に位置します。また、明治32年(1899年)には、小学校校舎の新築工事の際に古代の軍団に関連する「遠賀団印」が出土しており、ここに古代の役所に関連する建物があると考えられていました。

これまで、調査地周辺の発掘調査では、奈良時代から平安時代にかけての遺跡が確認されています。今回の調査でも同時代の遺物・遺構が見つかるほか、漆紙文書の出土や、柱の間の規模が東西4間、南北7間の大型掘立柱建物など、新たな発見がありました。

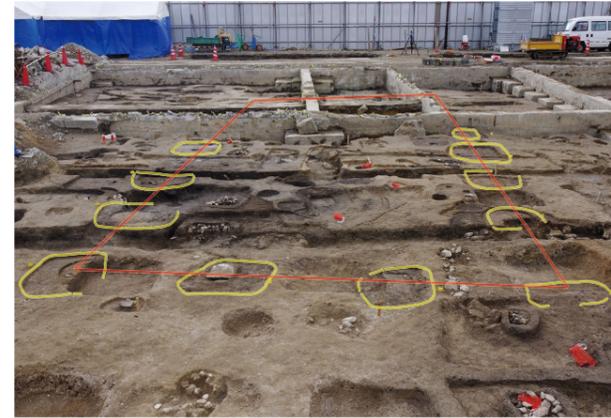


遺跡の時代：奈良時代から平安時代
出土した遺物：土器、瓦、陶磁器、墨書土器、漆紙文書 ほか
見つかった主な遺構：掘立柱建物、柵、溝など



大宰府条坊跡第346次調査 遺構配置図 (S=1/300)

ほったてばしらたてもの
◆掘立柱建物



見つかった掘立柱建物 (S-1) 北から



参考：熊本県鞠智城跡の復元建物

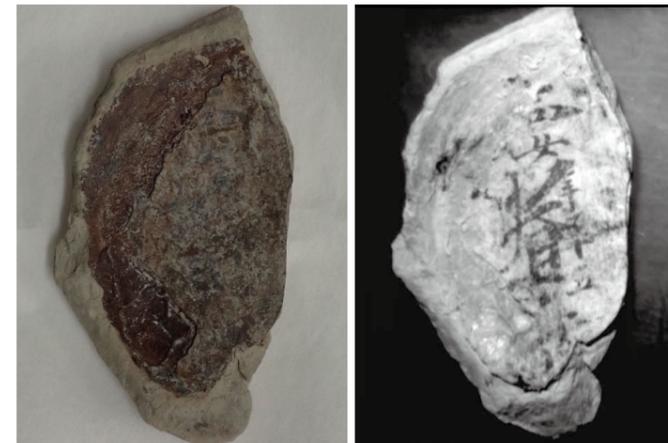
発見された建物跡は地面に穴を掘って柱を建てたもので、「掘立柱建物」と呼ばれています。

奈良時代の多くの建物がこの方法で建てられ、建物の柱には直径が25cmほどの大きさの木材が使われていました。



どそうだんめん
柱穴の土層断面 (当時の柱材が中央に残っています)

うるしもんじょ
◆漆が付着した文書



漆によって紙が張り付いた土器 赤外線を通して見える文字

土器に入れていた漆に、文字を書いた紙が付着したことにより、土中でも腐らず残ったものです。

漆が付着したことで残った文書の例は、太宰府市内では観世音寺境内に続いて2例目の発見です。紙に書かれた文字には、「女」、「年口十五」(口は不明)などの文字が見えます。

文書の詳細な時期は不明ですが、土器については、その形から平安時代初め頃のものと考えられます。

調査の成果

古代の役所に関する建物の一画である可能性があります。

古代の九州を管轄する大宰府や筑前国を管理した国府、軍事組織であった軍団などが考えられますが、今のところ建物の具体的な性格はわかりません。

大宰府条坊跡第 346 次調査 周辺遺跡



条坊 269 次調査
奈良時代の建物が 1 棟、
平安時代前半の建物が
2 棟ありました。

条坊 269 次



柱の出土状況

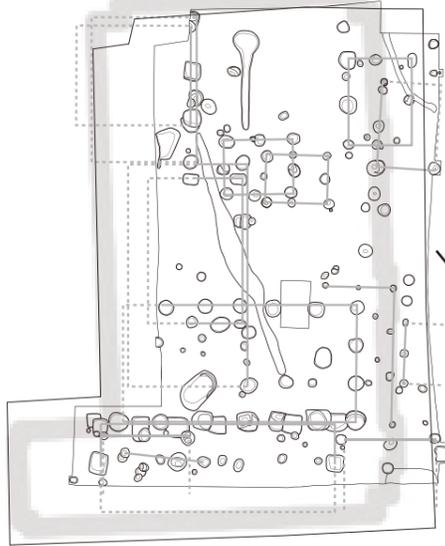


水城小学校校舎



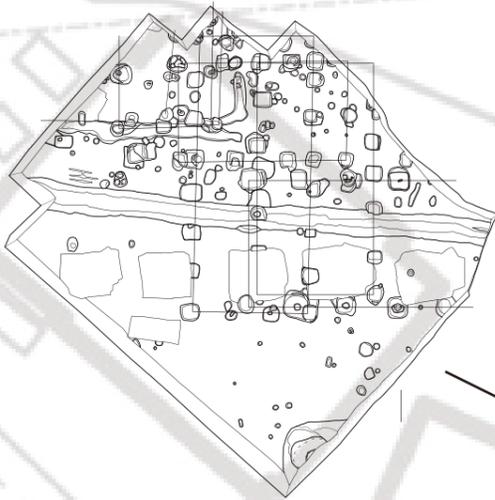
条坊 341 次

条坊 341 次調査
奈良時代の柱の穴が 3 つありました。
中には柱が残っており、直径 40 センチ
ほどの柱を使用した建物だったことが
分かりました。



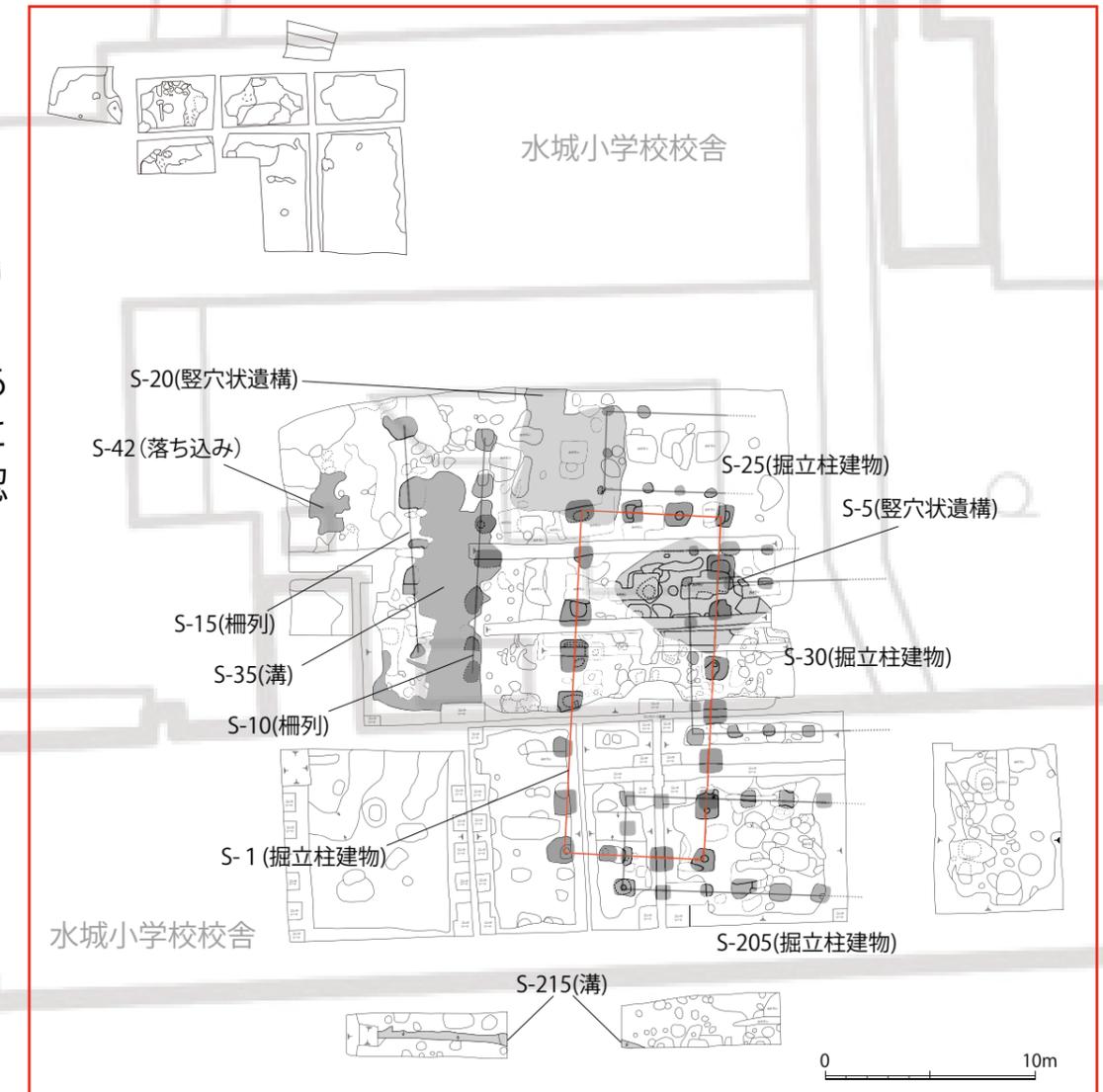
条坊 265 次調査
奈良時代から平安時代
にかけての建物が 12 棟あり
ました。
南側に奈良時代の建物があり、平安時代になると北側に
建物移っている状況が確認
できました。

条坊 265 次



条坊 264 次

条坊 264 次調査
奈良時代の建物 6 棟や、柱穴の
中に基石を入れる祭祀を行った遺
構、土地を区画する溝がありました。



条坊 346 次

